

平成 27 年度総会及び第 1 回研修会開催報告



千葉県立中央図書館

千葉県立中央図書館にて、平成 27 年度総会及び第 1 回研修会を開催しました。ネットワーク協議会加盟館 26 館のうち 19 館(委任状 7 館)、30 人の参加を得て、総会における議事は全て承認されました。

研修会には、沢辺均氏(ポット出版代表取締役)をお招きし、ご講演いただきました。今話題の電子書籍について貴重なお話を伺い、非常に有意義な研修会となりました。

日時 平成 27 年 7 月 2 日(木)
14 時 00 分～15 時 00 分:総会
15 時 00 分～16 時 30 分:第 1 回研修会
会場 千葉県立中央図書館

総会

1 開会

(1)会長挨拶

2 議事

- (1)平成 27 年度役員(案)について
- (2)平成 26 年度事業報告について
- (3)平成 26 年度会計決算報告について
- (4)平成 27 年度事業計画(案)について
- (5)平成 27 年度会計予算(案)について
- (6)その他

3 連絡事項

- ・機関紙(『Network 通信』)の原稿依頼について
- ・平成 27 年度会費の納入について
- ・加盟館調査について

4 閉会



齊藤誠一 会長



平成 27 年度役員は、次のとおりです。

理事 会長 齊藤 誠一 (千葉経済大学総合図書館)
副会長 森川 益幸 (千葉市みやこ図書館)
吉野 知義 (神田外語大学附属図書館)
居石 幸子 (敬愛大学・千葉敬愛短期大学メディアセンター)
安宅 仁志 (千葉県立中央図書館)
大山 努 (千葉大学附属図書館)
山本 淳一 (放送大学附属図書館)
岡田 雅浩 (日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館)
南波 省吾 (増田学園図書館)

監査 荒木 由紀子(淑徳大学附属図書館千葉図書館)
鈴木 康夫 (千葉市生涯学習センター)
事務局 千葉市中央図書館

千葉市図書館情報ネットワーク協議会 加盟館一覧(平成 27 年度)

No.	加盟館(室)名	No.	加盟館(室)名
1	放射線医学総合研究所図書室	14	千葉市若葉図書館
2	神田外語大学附属図書館	15	千葉市緑図書館
3	敬愛大学・千葉敬愛短期大学メディアセンター	16	千葉市美浜図書館
4	淑徳大学附属図書館千葉図書館	17	千葉大学附属図書館
5	千葉経済大学総合図書館	18	千葉明德短期大学図書館
6	千葉県立中央図書館	19	東京歯科大学図書館
7	千葉市議会図書室	20	東京情報大学情報サービスセンター
8	千葉市教育センター図書資料室	21	放送大学附属図書館
9	千葉市美術館美術図書室	22	日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館
10	千葉市中央図書館	23	植草学園大学図書館
11	千葉市みやこ図書館	24	千葉市生涯学習センター調査・資料室
12	千葉市花見川図書館	25	千葉県立保健医療大学図書館
13	千葉市稲毛図書館	26	増田学園図書館

研修会報告

「講演会『電子書籍等の動向』を聞いて」

千葉市生涯学習センター

満井 節子

“知識を求め深めたいという私たちの日常的な欲求の本質は、今も昔も同じ”

講演会『電子書籍等の動向』

平成 27 年 7 月 2 日(木)千葉県立中央図書館講堂において、千葉市図書館情報ネットワーク協議会 平成 27 年度第 1 回研修会が開催されました。

講師には、株式会社スタジオ・ポット～ポット出版 代表取締役 沢辺均(さわべひとし)氏を講師にお迎えし、「電子書籍等の動向」についてお話をうかがいました。

沢辺氏は、渋谷区役所に 1975 年から 86 年まで勤務された後、グラフィックデザインを生業とし、88 年に事務所「スタジオ・ポット」を設立、翌年に「ポット出版」として、出版業に参入されました。

また、2000 年に会員制の出版社ネットワーク「版元ドットコム」を立ち上げられるなど、出版物のインターネット上の情報提供のシステム化にも取り組まれていらっしゃる。また『図書館とメディアの本 ず・ぼん』を 1994 年に創刊され、現在も編集委員をされているほか、2012 年まで図書館運営を受託する「NPO げんきな図書館」の副理事長を務められるなど、図書館運営についても深

く関わりを持たれ、幅広い活躍をされています。本講演会では、出版業界側の視点から見える電子書籍の動向と、図書館として電子書籍をどう位置づけていくかの視点から、今後の各館の図書館サービスにおける取組みにつながる方向性を示唆していただき、大変興味深く拝聴いたしました。

電子書籍の考え方の整理

電子書籍を販売する電子書店が増え、それを読むためのスマートフォン、電子書籍リーダー(専用端末)などのデバイスも増えてきました。参加者の中では、これらのデバイスを利用して、電子書籍を利用している方は全体の 1/3 程度でした。沢辺氏からは、電子書籍の考え方の整理として、まず DRM(デジタル著作権管理)をかけているものと、かけていないものという分類があること。次にリフロー(※1)、フィックス(※2)、ハイブリッド(※3)という 3 種類の表示方式の分類があると説明がありました。また出版社から見た電子書籍として、どのようにして個

人の読者に本を販売しているか、電子図書館を巡る状況について説明がありました。なお現在図書館向けの電子書籍サービスの大手は TRC-DL(※4)であり、この他にも JDLS(※5)や楽天があるとのものでした。電子書籍の利用は、徐々に浸透してきているようです。(※6)

電子書籍とアクセシビリティの関係

参加者からは、「公共図書館への電子書籍の導入に際し、今市民は電子書籍を求めているか否か。また公共図書館が購入すべきものなのか、個人で購入すべきものなのか」、「大学での教科書の電子書籍化が進んでいるが、世の中のマジョリティとして、10 年 20 年後には、公共図書館はそのような波に乗っているのか」との質問があり、この電子書籍への取り組みが、公共図書館や大学図書館においても直接的な課題となっているようです。

沢辺氏は、「現代の電子書籍普及の上で、この読書へのアクセシビリティをい

かに確保するかが、図書館が向かうであろう課題であると述べられました。

そこで図書館と電子書籍をめぐるキーワードを3点あげられました。

まず1点目が、平成28年4月1日に、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)が施行されることによる、公共施設としての図書館サービスへの影響についてです。

「この法案は国連の「障害者の権利に関する条約」の締結に向けた国内法制度の整備の一環として、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的としています。」(※7)

人は、いつでもどこでも必要とする情報を手にする権利を持ち、その保障をすることが図書館の使命であることから、障害者サービスに大きな役割を担うであろう音声読み上げができる電子書籍(一部の機種)の可能性も検討対象であり、現在CD-ROMで提供されるデジータ図書(文字の拡大・音声読み上げ等)以上のサービスになるために、図書館は

何を準備しなければいけないのか、図書館の使命や著作権の問題、著作権者の意向を含めてその可能性も検討していく必要があります、今後図書館サービスのあり方への影響も大きくなると感じました。

2点目にアーカイブをめぐる議論を、EUのヨーロッパに象徴されるようなMLA連携の整備を進めていくべきであるとの示唆を示されました。

「博物館(Museum)、図書館(Library)、文書館(Archives)は、いずれも文化的情報資源を収集・保存・提供する公的機関であるという共通点を持ち、さらには情報資源のアーカイブ化等の課題を共有していることから、連携の重要性が認識されてきている。」(※8)

また「多様な文化資源をデジタル化し、世界に配信するデジタルアーカイブの整備は、文化資源の蓄積と活用における中心的な課題である。」(※9)

このことから利用者がストレスなく情報の共有、さらには活用ができる仕組みとして、デジタル化した資料は整備され、保存、利用されていくべきではないでしょうか。

3点目に、出版情報登録センター

(JPRO)の設立です。出版物の書誌情報と、出版権設定情報の登録・管理を行うことを目的とした組織です。(※10)

自らの読書空間の環境作り

私たちの文化の源である言葉は、語り部によって人々に語り継がれ、言葉を刻むための文字が発生し、紙の伝達、印刷技術の発達により、書物が発生し今日に至っています。その書物を保管する場所が図書館になったのですが、いつでもどこでも呼び出すことができる電子書籍による、自らの読書空間の環境作りも今後無視できないのではないのでしょうか。好きな本をいつでもどこでも読めることは、読書環境を整えるという意味でも新しいメディアであり、いつの時代であっても、知識を求め深めたいという私たちの日常的な欲求の本質は、今も昔も同じであると感じました。

電子書籍の利用において、知っておくべき情報や問題点を専門的な立場からお話しただけに感謝申し上げます。

《引用文献 参考文献 注記》

※1 リフロー:おもとの文字データをその都度画面や設定に応じて表示する仕組みで表示された内容が結果的にページとなる方式

※2 フィックス:紙の本と同じように文字などのレイアウトが固定されている方式

※3 ハイブリッド:文字単位か単語単位で画像を分割して並べる方式

※4 TRC-DL:東京流通センターの電子図書館サービス

※5 JDLS:(株)日本電子図書館サービス

※6 電子書籍情報まとめノート:http://www7b.biglobe.ne.jp/~yama88/topi_7.html

※7 内閣府 HP:<http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai.html>

※8 文部科学省 HP:http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1301655.htm

※9 アーカイブ立国宣言 ポット出版 13p

※10 出版情報登録センター(JPRO):<https://jpro.jpo.or.jp/>

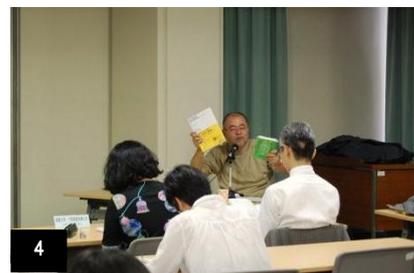
1/ 沢辺均氏

2/ 講師から参加者へ質問。電子書籍を1冊提供するのにかかる経費はいくらぐらい?(Q:

①5万円ぐらい、②10万円ぐらい、③20万円ぐらい A:③20万円ぐらい)

3/ 参考サイトやデータなどをプロジェクターで投影し、分かりやすく解説していただきました。

4/ ポット出版で出版されている電子書籍やアーカイブに関する本をお持ちいただき、ご紹介いただきました。



加盟館紹介：千葉県立中央図書館



- 1/千葉県資料室。千葉県に関連する資料(図書、新聞・雑誌)を備えており、地域に関する調査・相談に応じている。県・市町村が発行した資料、地図、県民の著作、江戸時代後期以降の歴史的資料などを有する。
- 2/一般資料室。各分野の辞典、年鑑、目録・書誌類と図書等を備えている。
- 3/児童資料室。幼児から中高生までを対象とした資料と児童資料に関する研究書、雑誌を備えている。児童資料の貸出しと調査・相談に対応。子ども向けのおはなし会を開催している。
- 4/マイクロコーナー。過去の新聞や「マイクロ化した千葉県資料」を見ることができる。
- 5/雑誌。一般誌、各分野の専門誌のほか県内で刊行された雑誌などを所蔵。
- 6/レファレンスデスク。レファレンスサービス(知りたい資料や情報、図書、雑誌・新聞、電子情報から探すお手伝い)をしている。

千葉県立中央図書館 データ

所在地: 千葉市中央区市場町 11-1
TEL: 043-222-0116
FAX: 043-225-8355
開館日時: 火～金 9:00-19:00、土・日・祝日・休日 9:00-17:00
休館日: 月(祝日及び休日の時はその翌日)、毎月第3金(祝日及び休日の時はその前日)、年末年始、特別整理期間
利用対象: 条件なし
その他:【データベース】日経テレコン 21(簡略版)、官報情報検索サービス、D1-Law.com、サピエ(視聴覚障害者総合ネットワーク)、ヨミダス歴史館
【座席数】閲覧席 92席、自習席 24席、児童席 49席
【貸出条件】千葉県内に在住・在勤・在学の方、身分証明書等で住所確認できるものの提示
千葉県立中央図書館 HP:
<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>

JR 本千葉駅から徒歩 7 分、千葉県文化会館のすぐ近くにある千葉県立中央図書館は、「第 11 回 BCS 賞」(1970 年)を受賞のほか、日本を代表する現存の近代建築の一つとして、「DOCOMOMO JAPAN 選定 日本におけるモダン・ムーブメントの建築」に選ばれています。

所蔵資料には、調査研究に役立つ各分野の辞典、年鑑、目録・書誌類、専門図書、基本図書の他、雑誌(県内で刊行された雑誌など)、新聞(全国紙、県内の地方紙、業界紙、官報など)、マイクロフィルム(明治時代から現在までの全国紙、江戸時代から明治時代にかけての千葉県資料など)があります。

この他、視覚に障害のある方のための録音資料(カセットテープ、DAISY)の収集・作成や、視覚に障害を持つお母さんお父さんがお子さんと一緒に楽しめるように、透明の点字シートを貼った点訳絵本を作成しています。

また、千葉県内の読書グループ・読書会等を対象に、同一タイトル 10 冊を 1 セットにした「十冊文庫」をご用意しています。

千葉県立中央図書館は、県内の市町村立図書館等を支援するとともに、調査研究図書館として、資料を提供しています。

お知らせ：加盟館紹介展開催

千葉市図書館情報ネットワーク協議会について多くの方に知っていただき、加盟館を利用いただくことを目的に、平成 18 年度から「加盟館紹介展」を実施しています。

加盟館紹介展では、加盟館ごとのパネルのほか、加盟館に関する資料などの配布もあります。ぜひ、お立ち寄りください。

【開催期間】平成 27 年 10 月 2 日(金)～22 日(木)

【会場】千葉市生涯学習センター アトリウムガーデン(1 階)



千葉市図書館情報ネットワーク協議会は、千葉市内の館種を越えた図書館ネットワークを通じて、情報提供能力を強固にし、図書館サービスの向上を図ると共に、学術研究及び生涯学習の発展に寄与することを目的として、平成 6 年 1 月に設立。
 この Network 通信は、加盟館の情報交流並びに協議会の活動状況を加盟館利用者等にお知らせすることを目的とし、平成 10 年 10 月から発行している。

Network 通信 No.46 2015 年 8 月 25 日発行
 千葉市図書館情報ネットワーク協議会事務局：
 〒260-0045 千葉市中央区弁天 3-7-7 千葉市中央図書館内
 TEL 043-287-3980 FAX 043-287-4074
 千葉市図書館情報ネットワーク協議会 HP:<http://www.ccal.jp/>

